

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	14	課題区分	C	
横断的な課題		人口減少下にあってもデジタル技術や地域の強みを生かした地域づくりの推進					
地域重点政策		人口減少下にあっても「デジタル技術や地域の強みを生かし今後も躍進する長野地域」をつくる					
実施機関		長野農業農村支援センター			担当課	所属	農業農村振興課
事業名		ながの果物語り 長野地域産果物魅力発信事業				電話	026-234-9592
						E-mail	nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	果物PR冊子をデジタル化することにより、観光客等が手軽に「長野地域の果物情報」を取得できるようにする。また、管内宿泊施設の食事での長野地域産果物の提供及び市町村等と連携した長野地域産果物等の情報発信により、地域の果物と産地の認知度向上を図り、新たなファン獲得を目指す。					
	現状と課題	R4年度までの「ながの果物語り」関連事業では、首都圏や関西圏へ出向いて長野地域産果物のPRを行ってきたが、R5年度からは地元を中心としたPRへとシフトして、長野地域を訪れた観光客等に対して地産地消及び認知度向上等を図ってきている。 長野県の令和5年の延べ宿泊者数は1,797万人(前年比+26.8%、令和元年比-0.5%)で、コロナ前とほぼ同程度の観光客が訪れている一方で、長野地域を訪れた観光客に対しての長野地域産果物のPRは不十分である。					
	内容 (変更後の内容)	1 果物PR冊子のデジタル化 現行の果物PR冊子(りんご・ぶどう・もも・あんず)をWEB版にして局HPに掲載 2 管内宿泊施設等におけるQRコードの設置 果物PR冊子(WEB版)及び長野地域の直売所マップにアクセスできるQRコードが記載されたPOPスタンドを作成し、管内宿泊施設等へ設置 3 宿泊施設における果物の提供 宿泊施設での食事で長野地域産果物(ぶどう、りんご)を提供 提供する果物は、宿泊施設1/2、農セ1/2ずつ費用を負担 4 市町村等と連携した長野地域産果物のPRイベントの実施 市町村で開催されるイベントにおける「ながの果物語り」ブースの設置					
	事業期間	R7.4 ～ R8.3					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額	備考	
	果物PR冊子のデジタル化		果物PR冊子 WEBデータ作製		22,000	需用費 ・果物PR冊子 WEBデータ作製費 20千円+税10%=22,000円	
	管内宿泊施設等におけるQRコードの設置		QRコード記載POPスタンド作製		316,470	需用費 ・QRコード(スタンド込み)作製費 287,700円+税10%=316,470円	
	宿泊施設における果物の提供		宿泊施設における果物の提供		613,860	需用費 ・りんご購入費 613,860円(税8%込)	
	市町村で開催されるイベントにおける「ながの果物語り」ブースの設置		市町村で開催されるイベントにおける長野地域産果物等のPR		11,000	需用費 ・冊子配布用袋 8,800円(税10%込) 役務費 ・イベント用法被クリーニング代 2千円+税10%=2,200円	
合 計				963,330			
指標及び達成状況	成 果 指 標			目標値	成果	達 成 状 況	
	果物提供の取組を行った宿泊施設等件数			15件	15件	● 達 成 ○ 一部達成 ○ 未 達 成	
	イベント参加者人数			500人	500人		
事業実績・成果	ア 果物PR冊子のデジタル化 現行の果物PR冊子(りんご・ぶどう・もも・あんず)をWEB版にして局HPに掲載した イ 長野市内宿泊施設における朝食りんごの提供 (R5から継続、R5,R6は長野市主催) ・長野市内15宿泊施設において、朝食等で地域産りんごを提供 (費用は宿泊施設と1/2相当ずつ負担、11/8～1/30;シナノゴールド、サンふじ) ・朝食会場等に、QRコードスタンド、地域産果物のPR冊子、ポスター、ミニのぼり旗を設置 ※QRコード:長野地域産果物のPR冊子や農産物直売所マップへアクセス可能 ウ 長野市内の4観光関連施設におけるQRコードスタンドの設置 エ 市町村等と連携した長野地域産果物のPRイベントの実施 ・「小布施六斎市」への出展 10/18(土)、果物PR冊子及び農業バイトチラシ配布(各500部)、果物語りロゴ入り風船配布(500個) 【成果】 ・果物提供施設の件数及びイベント参加者について目標を達成し、広く長野地域産の果物の情報を発信することができた。 ・イベント参加者からは、「こんなに沢山の種類のりんごを作っていることを初めて知った」、「果物をお土産に買って帰りたい」などの声が聞かれ、認知度の向上や新たなファンの獲得につながったと考えられる。						
	今後の方向性						
今後の方向性		引き続き、長野地域産果物及び産地の認知度向上を推進する					